

松禪寺報

第 95 号

<https://syozen.com>

<https://www.facebook.com/syozenji>

発行日 令和 3 年 9 月 25 日

石室山 松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒 668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com



灯る彼岸花

写真提供

藤浪秀明様（大阪府）

老いへの視点 「老人力」

老いゆくからだとその思いを考える

- 1 しわがよる、ほくろができる、腰まがる
頭ははげる、ひげ白くなる。
- 2 手は振れる、足はよろつく、歯は抜ける
耳は聞こえず、目はうとくなる。
- 3 身に添うは、頭巾、襟巻、杖、眼鏡
湯たんぽ、温石、しびん、孫の手。
- 4 聞きたがる、死にともながる、寂しがる
心はまがる、欲ふかくなる。
- 5 くだくなる、気短になる、ぐちになる
出しゃばりたがる、世話やきたがる。
- 6 またしても、同じはなしに子を誉める
達者自慢に人は嫌がる。

これは江戸時代の臨済宗妙心寺派の禅僧・仙厓義梵(せんがいぎぼん)(1750年~1837年)の「老人六歌仙」という歌です。しわくちやになり、目も耳も遠くなった。さて入れ歯だ。おしっこが近い。うまく言い当てています。

人間、年を重ねると機能の衰えはいかんともしがたいものです。自分の背中は見られませんが、他人様にはしっかりと見られており、知らぬ間に老いは進んでいるということでしょうか。檀徒の中島英三さんが朝日新聞



に投稿された文章をお読みください。

「年寄りではない?」(三木市、中島英三さん)
私は今年、数え年で70歳となり古希を迎えたが、年寄り意識は念頭になかった。

ところが先日、バスの中で見知らぬ女性から初めて席を譲られた。「お座り下さい」と彼女は席を立ち、私から逃げるようにバスの後部へと移動した。

その折、私はバスが揺れるせいで足を踏ん張り、小銭を探すためにぶつぶつ言いながら財布をまさぐっていた。私の姿勢やしぐさがいかに年寄り臭く、薄気味の悪い老人と思われたのだろうか。

私たちの様子を見ていた妻は帰宅後、「連れ合いとしてはショックだわ。他人から見れば、やはり年寄りなのかなあ」と嘆いた。一方で「年のせいではないわ。元々あなたは、よその人からうつつとうしがられるタイプだから」と、私の慰めにもならないことをつぶやく。

私自身その時は「えっ、私ですか」と驚き、最初は「いえいえ」と座るのを固辞したのだが、最近では車の車庫入れも一度できず、切り返すことが多い。「そんなに年寄りではない」と言い張るのはもう無理なのかもしれない。この日は、他人の厚意を素直に受け入れる「かわいい老人」になれ、という忠告の日だったのかな。

(平成29年2月5日「朝日新聞」に掲載)

老後なんてまだまだ先の話と思っていたのですが、年を重ねることは防ぎようのない事実です。でも、心の持ちようで、生き方ががらりと変わります。働き方改革で、老後を迎えても仕事に専念することもできます。あるいは、第二の人生を今までとは違った生き方をめざす人もあるでしょう。いろいろな束縛から解き放たれ、老後を楽しみむ人生もまた一つの生き方改革だと思います。再度、中島英三さんが新聞に投稿された文章をお読みください。

「のこぎりを奏でる」(三木市、中島英三さん)
「何か楽器が出来たらと思っている人。鼻歌が歌えれば、楽譜は読めなくてもOK。珍しく目立つ芸で『金物のまち・三木』を盛り上げたい人、大歓迎」

この誘い文句にしびれ、のこぎり音楽同好会に入会して8か月が経つ。メンバーは男女10人。みな中高年だが、若々しい情熱を持ち、活動的な人たちがばかりだ。演奏依頼は多く、腕のあるメンバーは、自治会や老人会、市民イベントなどにどんどん出演している。

ところが私は、S字状にしならせたのこぎりをバイオリンの弓で弾く基本がなかなか身につかない。何とか最近、童謡「きらきら星」と「夕焼け小焼け」がそれらしくなった。

6月、6歳の孫娘が弾くピアノと待望の協演をした。聴いた息子夫婦は、不確かな音程に首をかしげ、時々発する金切り音に噴き出す始末。「だいぶうまくなったよ」と褒めてくれるのは、長年にわたり夫をおだて乗せてきた糟糠の妻^{そうこう}だけだ。

私の望みは、いつの日にか、施設に入っている98歳の母親に「故郷」を聴かせることだ。おっと、そんな口先だけではあかん。もっと練習せな。まだ演奏会にもまともに出ていないのだから。

(平成30年7月8日「朝日新聞」に掲載)

年老いていく親の姿は、その後の自らの姿

でもありましよう。住職と同級生の太田弘美さん(旧姓・水縄)の短歌集『在りし日の母』から、いくつかをご紹介します。

湯たんぽを足で押すのも難儀とぞ

傘寿を越えし母の筋力

父の手の意外に小さきを知りてより

我の父似がまた一つ増え

母からの手紙はキッチンペーパーに

書かれておりぬ薄き文字にて

連れ添いて六十六年父母は

しばし離され父入院す

巢鴨にて腰の曲がりし人用の

ズボン見つけて母用に買う

長生きを電話で嘆く母の声

聞きつつ思う我が身の老後

手術後は余命三年くらいだと

言われし母の七度目の秋

「老人力」という言葉をご存知ですか。

前衛美術家で作家の赤瀬川^{あかせがわ}原平^{げんぺい}さんが、1998年に発表した『老人力』という著書です。特別な力ではなく、例えば、年を取っ

てくると物忘れが多くなりますが、それを悪い方向にとらないで、「忘れる力」がついたんだと考えるのです。ものにこだわらないとか、くよくよしないとか、ゆったりしているとか、昔のいいことだけを覚えているとか、年を重ねるにつれて現れてくる特徴を善い方に解釈し、それを「老人力」がついたと考えるわけです。

何かにつけあくせくし、経験もないのに急いで物事を判断しがちな若者より、ずっと優れているのではないか、というのです。すべて自然のままがいい、ということでしょう。

ものは考えようです。衰えることは悪いことだと思えがちな現代人に、新しい発想の仕

方を、赤瀬川

さんは教えて

くれているよ

うです。

こまごまと

したことを気

にせず、大局

的に物事を見

られるように

なりたいもの

です。



ご長寿おめでとうございます

米寿のお祝いを

伝達しました

妙心寺派花園会本部への申請により、今年米寿を迎えられた5名の皆さんに、妙心寺派管長・小倉宗俊老大師より寿詞と輪袈裟をいただきました。併せて松禪寺花園会から、寿詞を入れる額縁をそれぞれ贈呈させていただきました。誠にありがとうございました。

お家に長寿の方々が居られるのは家庭和樂のもとであり、一家繁栄の瑞兆とお祝い申し上げる次第です。ますますのご長寿を保たれるようお願いいたします。

◎米寿

栗尾 西垣 弘子様(昭和9年生まれ)
栗尾 武田美代子様(昭和9年生まれ)
平田 栗田 幸江様(昭和9年生まれ)
久畑 浅田つや子様(昭和9年生まれ)
佐々木 榎本はる子様(昭和9年生まれ)

※お願い

お寺では檀信徒皆さま全員の生年月日を把握していません。今年米寿88歳を迎えられる同居家族が居られましたら、ぜひ住職までお知らせ下さい。数え年でお祝いをしています。が、年齢が過ぎていても構いませんので、ぜひご一報ください。お祝いの品を妙心寺派花園会本部へ申請いたします。

第二回境内掃除と総代会を開催しました

お盆も間近に迫った7月25日(日)、今年2回目となる境内掃除を行いました。幸いに好天に恵まれ、午前8時から10時までの2時間、草刈りなどの作業に精を出して頂きました。また、本堂のガラス拭きもお願いしました。今回協力してくださったのは、総代(責任役員)さん5人をはじめ、上山根、下山根、貝田、平田、佐々木(中路、宮本、榎谷)の各評議員さん7名と有志6名、総勢18名の皆さんでした。お陰様で8月7日の施餓鬼会には、参拝者皆さんを気持ち良くお迎えすることができました。有り難うございました。

この作業を終えてから総代会(責任役員会)を開催しました。鐘楼屋根の瓦のズレが生じ、積雪により瓦が落ちる危険性もあるため、屋根改修の提案をしました。総代会では、まずは業者に状況をみてもらい、見積もりを出してもらおうと決議しました。今後は、総代会



で協議を続けながら報告いたします。何卒ご理解とご協力をお願いいたします。総代会終了後は、施餓鬼会の施餓鬼棚の組み立てなどを行っていただきました。

いまする行り執を忌と開山忌を執り行います

- 達磨大師は、禪宗の開祖です。南インドの小国の王子として生まれ、後に出家して菩提達磨と名を改めます。また、松禪寺は来翁祖諱和尚大禪師を開基として、禪師の師である一笑禪慶和尚大禪師を勧請開山としています。この達磨忌と開山忌を次のとおり執り行いますので、ぜひお参りください。
- とき 11月3日(水/文化の日)
- 午前10時より法要
- 場所 松禪寺本堂
- ※恐れ入りますが、マスク着用で来山ください。
- ※お斎はありません。法要のみです。

護持会

会費(後期分)の

納入にご協力願います

9月は松禪寺護持会費の通常会費(後期分)をお願いする月です。松禪寺花園会は檀信徒の皆様方の、護持と発展を願う護持会費で運営しています。各評議員さんより納入の依頼がありますので、何卒ご協力の程よろしくお願います。遠方の皆様には郵便局の払込取扱票をお送りいたします。

なお、賛助会員の方々は本年2月に納入依頼済みですので、後期分の請求はございません。